

予報第 5 号(9 月)

大 防 第 号
平成 20 年 8 月 29 日

関係各位

大阪府病虫害防除所長

病虫害発生予察情報について

標記について次のとおり発表したの送付します。

病虫害発生予報第 5 号(9 月)

平成 20 年 8 月 29 日
大阪府病虫害防除所

農作物名	病虫害名	予想発生量
みかん	そうか病	□
	黒点病	△
	ミカンハダニ	△
	ミカンサビダニ	△
果樹全般	果樹カメムシ類	○
なす	褐色腐敗病	□
	ハモグリバエ類	△
きゅうり	うどんこ病	△～○
	炭そ病	□
	べと病	□

	褐斑病	□
	ウリノメイガ(ワタヘリクロノメイガ)	△
	ハモグリバエ類	△
アブラナ科野菜	ハイマダラノメイガ(ダイコンシンクイ)	□~○
	コナガ	△
きく	黒斑病・褐斑病	○
	白さび病	○
野菜・花き類	アブラムシ類	□
	ミカンキイロアザミウマ	□
	ミナミキイロアザミウマ	□
	シロイチモジヨトウ	△
	ハスモンヨトウ	□
	オオタバコガ	○
	ハダニ類	○
▲:少ない △:やや少ない □:並 ○:やや多い ●:多い		

8月気象予報(大阪管区气象台7月25日発表)

	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温(確率)	20	40	40
降水量	30	40	30
日照時間	30	40	30

A 水稻

【いもち病(穂いもち)】

[予報内容] 発生量: 並 ~ やや多い

[予報の根拠]

(1)8月の巡回調査では、北部の一部地域で発生がやや多かった。

(2)9月の降水量は平年並、気温は平年並か高いと予想されている。

[防除上考慮すべき事項]

(1)葉いもちが発生していない地域でも、今後の天候によっては穂いもちが発生することもあるので注意する。

(2)発生を認めたら早期に防除を徹底する。

(3)いもち病に弱い品種(ヒノヒカリ等)を栽培しているほ場では、発病の恐れがあるので十分注意する。

[メモ]

(1)低温多雨、日照不足で発病が多くなる。

【紋枯病】

[予報内容] 発生量: 並

[予報の根拠]

(1)8月の巡回調査では、主に窒素過多の水田で発生が見られた。

(2)9月の降水量は平年並、気温は平年並か高いと予想されている。

[防除上考慮すべき事項]

(1)上位3葉までに病斑を認めたら、使用基準(収穫前日数)に留意して、薬剤散布をする。

[メモ]

(1)高温、多雨であれば発生が多くなる。

(2)窒素過多、密植栽培、畦畔雑草の繁茂は発病を助長する。

【内えい褐変病】

[予報内容] 発生量: 並

[予報の根拠]

(1)8月の巡回調査では、発生は平年並であった。

(2)9月の降水量は平年並と予想されている。

[メモ]

(1)開花期前後の強風と降雨により発生が助長される。

【セジロウンカ】

[予報内容] 発生量: 並

[予報の根拠]

(1)8月の巡回調査では、発生は平年並であった。

(2)8月の予察灯への飛来虫数はやや少ない。

[防除上考慮すべき事項]

(1)株元をよく観察し、発生の多いほ場では、薬剤散布を行う。

【トビイロウンカ】

[予報内容] 発生量: やや少ない

[予報の根拠]

(1)8月の巡回調査では、発生はやや少なかった。

(2)8月の予察灯への飛来虫数はやや少なかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)薬剤は、生息している株元まで十分ゆきわたるように散布する。

[メモ]

(1)海外からの飛来が多く、8～9月の気温が高いと発生が多くなる。

【ツマグロヨコバイ】

[予報内容] 発生量: 並 ~ やや多い

[予報の根拠]

(1)北河内地域でやや多いが、その他の地域では発生は平年並であった。

(2)8月の予察灯への飛来虫数は平年並であった。

[メモ]

(1)平年の成虫発生ピークは、8月下旬から9月上旬である。

【ニカメイチュウ(第2世代幼虫)】

[予報内容] 発生量: やや少ない

[予報の根拠]

(1)8月の巡回調査では、発生は少なかった。

(2)8月のフェロモントラップでの第2回成虫の誘殺虫数はやや少なかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)防除適期は、発蛾最盛期から約1週間後の若齢幼虫時の9月上旬である。

[メモ]

(1)平年の第2回成虫の発蛾最盛期は8月下旬である。

【斑点米カメムシ類(ホソハリカメムシ、アカスジカスミカメ等)】

[予報内容] 発生量: やや多い

[予報の根拠]

(1)8月の巡回調査では、斑点米カメムシ類の発生はやや多かった。

(2)8月の予察灯への飛来虫数はやや多かった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)アカスジカスミカメ等は体長が小さく畦畔からの観察では確認しづらい。

捕虫網のすくい取りで確認する。

(2)出穂10日後に薬剤を株元にまで届くように散布する。

(3)水田内のイネ科雑草はカメムシ類を呼び込むので抜き取る。

【フタオビコヤガ(イネアオムシ)】

[予報内容] 発生量: やや多い

[予報の根拠]

(1)8月の巡回調査での発生はやや多く、一部で多発している水田も見られた。

[防除上考慮すべき事項]

(1)幼虫の体色は葉色と似ており畦畔からの観察では確認しづらい。

株をたたき落下する幼虫数を確認し、発生が多い場合は薬剤を散布する。

【コブノメイガ】

[予報内容] 発生量: やや少ない

[予報の根拠]

(1)8月の巡回調査での発生はやや少なかった。

B 果樹

1 ぶどう

【べと病】

[予報内容] 発生量: 平年並

[予報の根拠]

(1)例年、秋期に雨が多いと発生が見られる。

(2)9月の降水量は平年並みと予想されている。

[防除上考慮すべき事項]

(1)秋期に早期落葉は、樹勢が低下する。

[メモ]

(1)べと病は天候により急激に蔓延することがある。

2 みかん

【そうか病】

[予報内容] 発生量: やや多い

[予報の根拠]

(1)8月の巡回調査では発生がやや多かった。

(2)9月後半に気温が下がり出すと、発生が増える。

[防除上考慮すべき事項]

- (1) 台風などの強風で傷がつくと急速に広がりやすい。
- (2) 今年は裏年なので、仕上げ摘果が弱めになる。

【黒点病】

[予報内容] 発生量: やや少ない

[予報の根拠]

- (1) 8月の巡回調査では発生がやや少なかった。

【ミカンハダニ】

[予報内容] 発生量: やや少ない

[予報の根拠]

- (1) 8月後半の現地調査では発生はやや少なかった。

[防除上考慮すべき事項]

- (1) 初秋に雨が少ないと多発することがある。
- (2) 同系統の薬剤の連用をさけ、ローテーション散布する。

【ミカンサビダニ】

[予報内容] 発生量: やや少ない

[予報の根拠]

- (1) 8月後半の現地調査では発生はなかった。
- (2) 初秋に雨が少ないと多発することがある。

[防除上考慮すべき事項]

- (1) 被害果が多く見られるようになってからの薬剤散布では、十分な防除効果を得にくい。

3 果樹全般

【果樹カメムシ類】

[予報内容] 発生量: やや多い

[予報の根拠]

- (1) フェロモントラップによる誘殺虫数は、やや多かった。
- (2) 近隣県で発生が多く確認されている。

[防除上考慮すべき事項]

- (1) カメムシ類は園によって飛来状況が大きく異なるので、注意深く見回り、発生を認めたら防除を行う。
- (2) カメムシ類の活動が活発な夕方か早朝に薬剤を散布する。

C 野菜

1 なす(露地栽培)

【褐色腐敗病】

[予報内容] 発生量 :並

[予報の根拠]

(1)8月の巡回調査では、発生は平年並であった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)降雨による泥のはね上がりを防止するために、マルチや敷きわらを行う。

(2)被害残さは、早期にほ場外へ持ち出し処分する。

[メモ]

(1)高温多湿時に発生が多く、梅雨後半の降雨、7～9月の雷雨や台風など、夏秋期の降雨は重要な発生要因となる。

(2)発生ほ場では、収穫果が出荷後に発病する場合がある。

【ハモグリバエ類】

[予報内容] 発生量 :やや少ない

[予報の根拠]

(1)8月の巡回調査では、発生はやや少なかった。

[防除上考慮すべき事項]

2 きゅうり

【うどんこ病】

[予報内容] 発生量:やや少ない～並

[予報の根拠]

(1)8月の巡回調査では、発生はやや少なかった。

(2)植物防疫協力員の報告では平年並であった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)摘葉はこまめに行い、過繁茂にならないようにする。

(2)発生初期の防除を徹底する。

(3)近年、きゅうりで発生が増えている。

(4)ストロビルリン系剤(アミスター、ストロビー)は耐性菌が増えており、効果が低い。

[メモ]

- (1)うどんこ病は、日照不足、乾燥条件下で多発する。
- (2)ブルームレス台木のきゅうりでは、うどんこ病が発生しやすい。

【炭そ病】

[予報内容] 発生量 :並

[予報の根拠]

(1)8月の巡回調査では、発生は平年と同様に見られなかった。

[防除上考慮すべき事項]

- (1)ハウス内の過湿を避ける。
- (2)窒素過多は発生を助長するので、窒素肥料のやりすぎに注意する。

【べと病】

[予報内容] 発生量 :並

[予報の根拠]

(1)8月の巡回調査では、発生は平年と同様に見られなかった。

[防除上考慮すべき事項]

- (1)ハウス内の過湿を避ける。
- (2)肥切れすると発病しやすいので、肥培管理に注意する。

【褐斑病】

[予報内容] 発生量 :並

[予報の根拠]

(1)8月の巡回調査では、発生は平年と同様に見られなかった。

[防除上考慮すべき事項]

- (1)ハウス内の過湿を避ける。
- (2)窒素過多や肥切れになると発病しやすいので、肥培管理に注意する。

【ウリノメイガ(ワタヘリクロノメイガ)】

[予報内容] 発生量 :やや少ない

[予報の根拠]

(1)8月の巡回調査では、発生はやや少なかった。

[防除上考慮すべき事項]

- (1)ハウスの開口部を寒冷紗(2mm 目合)等で被覆し、成虫の侵入を防止する。
- (2)食害株の幼虫を捕殺する。

[メモ]

(1)ハウス抑制栽培の定植直後に発生が認められることが多い。

【ハモグリバエ類】

[予報内容] 発生量 : やや少ない

[予報の根拠]

(1)8月の巡回調査では、発生はやや少なかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)ハウスの開口部を寒冷紗(1mm 目合)等で被覆し、成虫の侵入を防止する。

3 キャベツ等アブラナ科野菜

【ハイマダラノメイガ(ダイコンシンクイ)】

[予報内容] 発生量 : 並~やや多い

[予報の根拠]

(1)8月のフェロモントラップでの誘殺虫数はやや多かった。

(2)8月の植物防疫協力員報告では、発生は平年並であった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)苗床は寒冷紗等(2mm 目合)で被覆し、成虫の侵入を防止する。

(2)食害の見られた株は、速やかに処分する。

【コナガ】

[予報内容] 発生量 : やや少ない

[予報の根拠]

(1)8月のフェロモントラップでの誘殺虫数はやや少なかった。

(2)8月の病害虫防除員報告では、発生はやや少なかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)発生初期に防除を徹底する。

(2)寒冷紗(1mm 目合)によるべたがけ、トンネルがけの防除効果は高い。

D 花き類

1 きく

【黒斑病・褐斑病】

[予報内容] 発生量: やや多い

[予報の根拠]

(1)定植期に発生したほ場が多く、降雨などで再発生することが考えられる。

[防除上考慮すべき事項]

- (1)発病した下葉は早めに取り除いて処分する。
- (2)降雨による泥のはね上がりを防止するために、マルチや敷きわらを行う。

【白さび病】

[予報内容] 発生量: やや多い

[予報の根拠]

- (1)定植期に発生したほ場が多く、降雨などで再発生することが考えられる。

[防除上考慮すべき事項]

- (1)発病した下葉は早めに取り除いて処分する。

E 野菜・花き・大豆

【アブラムシ類】

[予報内容] 発生量 : 並 寄主作物: 野菜・花き・大豆

[予報の根拠]

- (1)8月の巡回調査では、発生は平年並であった。
- (2)8月の黄色水盤での誘殺虫数は平年並であった。

[防除上考慮すべき事項]

- (1)少発生時の防除を徹底する。
- (2)同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

[メモ]

- (1)アブラムシ類はウイルス病を媒介する。
- (2)きゅうり(かぼちゃ台木)ではウイルス病に複合感染すると、急性萎ちょう症を起こすことがある。

【ミナミキイロアザミウマ】

[予報内容] 発生量 : やや少ない 寄主作物: 野菜

[予報の根拠]

- (1)8月の巡回調査では、露地なす、ハウスきゅうりでの発生はやや少なかった。
- (2)8月の病害虫防除員報告では、発生はやや少なかった。

[防除上考慮すべき事項]

- (1)葉の被害に注意し、少発生時の防除を徹底する。
- (2)同一薬剤の連用を避けローテーション散布を行う。

【ミカンキイロアザミウマ】

[予報内容] 発生量 : 少ない 寄主作物: 野菜、花

[予報の根拠]

(1)8月の巡回調査では、発生は少なかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

(2)収穫後の残さは、他作物等への発生源となるので速やかに処分する。

[メモ]

(1)水なすの果実にのみ、果頂部に脱色白斑点症状を起こす。

(2)トマト黄化えそウイルス(TYWV)などを媒介する。

【シロイチモジヨトウ】

[予報内容] 発生量 : 並～やや多い 寄主作物: 野菜、花き

[予報の根拠]

(1)フェロモントラップへの誘殺虫数は平年並で、地点によってはやや多かった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)発生初期(若齢幼虫期)に防除を徹底する。

(2)フェロモンディスペンサーを設置すれば、成虫の交尾を阻害し、被害を軽減できる。

(3)施設では、開口部を寒冷紗等(5mm 目合)で被覆し、成虫の侵入を阻止する。

(4)黄色蛍光灯を終夜点灯すれば、成虫の行動や産卵を抑制し、被害を軽減できる。

【ハスモンヨトウ】

[予報内容] 発生量 : 並 ~ やや多い 寄主作物: 野菜、花き、大豆

[予報の根拠]

(1)8月の巡回調査では、発生は平年と同様に見られなかった。

(2)フェロモントラップへの誘殺虫数はやや多かった。

(3)8月の植物防疫協力員の報告では発生はやや少なかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)発生初期(若齢幼虫期)に防除を徹底する。

(2)卵塊が付着していたり、若齢幼虫が集団で食害している葉は、直ちに摘葉し、ほ場から持ち出して処分する。

(3)施設では、開口部を寒冷紗等(5mm 目合)で被覆し、成虫の侵入を阻止する。

(4)黄色蛍光灯を終夜点灯すれば、成虫の行動や産卵を抑制し、被害を軽減できる。

【オオタバコガ】

[予報内容] 発生量 : やや多い 寄主作物: 野菜、花き

[予報の根拠]

(1)8月の巡回調査では、なす果実での発生は一部ほ場でやや多かった。

(2)8月のフェロモントラップへの誘殺虫数はやや多かった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)発生初期(若齢幼虫期)に防除を徹底する。

(2)被害のあった新芽や蕾、果実は早期に処分し、周辺の幼虫を探して捕殺する。

(3)施設では、開口部を寒冷紗等(5mm 目合)で被覆し、成虫の侵入を阻止する。

(4)黄色蛍光灯を終夜点灯すれば、成虫の行動や産卵を抑制し、被害を軽減できる。

【ハダニ類】

[予報内容] 発生量 : 並 ~ やや多い 寄主作物: 野菜、花き、大豆

[予報の根拠]

(1)8月の巡回調査では、発生は平年並 ~ やや多かった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)発生初期の防除を徹底する。

(2)同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。

[メモ]

(1)高温、乾燥条件で多発する。

【コナジラミ類】

[予報内容] 発生量 : やや少ない ~ 並 寄主作物: 野菜類、花き類

[予報の根拠]

(1)8月の巡回調査では、発生は平年並であった。

(2)8月の植物防疫協力員の報告では発生はやや少なかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)発生初期の防除に努める。

- (2)被害葉や残さは、ほ場より持ち出し、穴を掘って埋めるなどして処分する。
- (3)施設では、開口部を寒冷しゃで被覆し、成虫の侵入を阻止する。
- (4)同一薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
- (5)ほ場周辺の除草にも努める。

[メモ]

- (1)タバココナジラミはトマト黄化葉巻病ウイルス(TYLCV)を媒介する。

【吸実性カメムシ類】

[予報内容] 発生量 : 並 寄主作物: 大豆

[予報の根拠]

- (1)8月の巡回調査では発生は平年と同様に見られなかった。

[防除上考慮すべき事項]

- (1)莢を吸汁するので、開花期～幼莢期に薬剤防除を行う。

農作物の病害虫に関する情報は

●病害虫発生情報メールサービス

申込先 大阪府病害虫防除所メールサービス担当

TEL 072-958-6551(内線232)

<情報料無料>

年間約40件の病害虫情報を電子メールで送付します。

●おおさかアグリメール

申込先 大阪府環境農林水産総合研究所(本部)

企画調整部技術普及課

おおさかアグリメール受付担当

TEL 06-6972-7666

最新の農業情報をあなたの携帯電話にお届けします。

(受信に要する通信費は自己負担です。)

●Web版大阪府園芸植物病害虫図鑑

「ひと目でわかる花と野菜の病害虫」

<http://www.epcc.pref.osaka.jp/afr/zukan/index.html>
(社団法人大阪府植物防疫協会)